

〔科目名〕				〔単位数〕		〔科目区分〕	
学 習 導 入 演 習				2 単位		アカデミック・ コモン・ベーシックス	
〔担当者〕		〔オフィス・アワー〕				〔授業の方法〕	
横 手 一 彦		時間:開講時に指示 場所:横手研究室(616 号室)				講義・演習	
〔科目の概要〕							
大学で〈学ぶ〉ということは、どういうことなのだろう。高校までの勉強と、どこまでが同じで、どこからが違うのだろう。大学一年、入学した春学期の、学生ひとり一人の、そのような戸惑いは当然である。また、自然なことでもある。 この科目は、これまでの「学習」という土台の上に、大学における〈学ぶ〉という筋道を示すような形で、疑問や不安に応えるようとする科目である。新しい領域に接するではなく、〈学ぶ〉ということに関連した応答が目的の一つである。そのため、入門的な内容になる。 ひとり一人が、今後の四年間をみすえ、その初年度の春学期に、〈学ぶ〉という自覚と、〈学ぶ〉という姿勢を自らに引き寄せる。教員の立ち位置は、それらを側面的に支援するところにある。教員は、側面的であるという以上に前へ進むことは出来ない。〈学ぶ〉ということは、〈覚える〉こと、〈勉強する〉こととは違う。その違う部分を大切にしたい。加えて、自分の文章を書く、自分の論文を書くという方向へと段階的に進める(レポート作成)。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
気づけなかったことに、気付く。知らなかったことを、知る。それらは単純なことのようで、それほど簡単ではない。深い意味を持っている。自らの意欲が、その底辺に関わる。自分が〈学ぶ〉という一面に、人から〈学ぶ〉という側面を重ね、これまでの自分に自覚的になる。大切な接点であり、正面から向き合おうとすれば、相手(他者)は意外なほどに手強いし、凄い存在である。安易な自己満足は許されない。 これまでと、いまに立ち返り、もう一度見つめ直せば、必ずしも十分ではなかったと気づく。その隙間(すきま)を埋める。「自分が」「自分で」「自分の」、である。誰かは手助けしてくれるが、その代理や代弁を務めることはない。 大学で〈学ぶ〉というプロセスは、約(つづ)めれば、物や事や人や考え方に向き合い、特定の事柄を対象化し、自らの課題を発見する。分類し、分析し、考察を深め、調査し、議論を重ね、論究を続けるという流れとしてある。成果は、レポートにまとめられる。意図的に、段階的に、踏み上がる。そのことで自らが〈学ぶ〉自覚と、自らが〈学ぶ〉姿勢を具体的に引き寄せる。 それらが、大学という場で〈学ぶ〉基礎となる。自分が苦労して書き上げたレポートに、自分を励ます力が宿る。〈学ぶ〉階梯を自立的に歩み、習得したものは、大学四年間の〈学び〉の要になる。							
〔科目の到達目標〕 課題レポートの作成							
1. 過去の実践例に学ぶ(批判的な論究)。 2. 課題意識、関連資料の収集と整理、分析的思考。論理に基づいた構想力。それらの文字化(レポート作成)。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○						

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1. 教壇に立つ側が饒舌に過ぎる場合がある。自戒し、自重する。 2. 教員の用意する話題が、脈絡に欠けると受け取られる時もある。教材の一部を組み立て直し、流れのある展開となることを心掛ける。他方に教材開発に努め、多種、多様であるという側面を維持する。 3. レポートの書き方について、事例を紹介し、その実践的に展開する。	
〔教科書〕 特に指定しない。	
〔指定図書〕 特に指定しない。	
〔参考書〕 佐藤望編著『アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門』第2版(2016、慶應義塾大学出版会)など。	
〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 教場での積極的姿勢や課題解決への意欲など2割、口頭発表1割、小レポート2割、課題レポート5割。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学ぶという意欲。級友との学び、級友が学ぶ姿勢への共感。レポートという表現行為(言語化)の実践。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 科目導入の初期段階への接近 内 容: 1.大学というところ 2. 大学生ということ 3. 自分が学ぶ 4. 高校生と大学生 5. 中学生と高校生と大学生 教科書・指定図書 なし 以下同じ
第2回	テーマ(何を学ぶか): 教員による科目内容の方向付け 内 容: 1. 各自の事前学習 2. 大学図書館というところ 3. 図書館図書の選定(新書版程度) 4. 口頭発表(本に学ぶ 5分程度 3人) 5. 例.西行 桜 6. 例.広瀬淡窓 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): これまで自分 今の自分 これからの自分 内 容: 1. 自分の過不足 2. いまの自分に必要なこと 3. 方向性・構想・具体的な展開 4. 考えるということ 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 多様な知1——教科書と教科書以外に学ぶ1 内 容: 1. 科学的思考 2. 大学という教育機関 3. 他人が組み立てた思考方法を学ぶ 4. 自分と自分以外との関わり 5. 研究ということ 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 多様な知2——教科書と教科書以外に学ぶ2 内 容: 1. 例.戦前の新潟の農民の子 2. 小学校を卒業した後に大学の教壇に立つ 3. 例.戦後の大阪生まれの子 4. 高校を卒業した後に大学の教壇に立つ 5.自分を考え直す 6. 小レポート作成 教科書・指定図書

第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 多様な知 3——教科書と教科書以外に学ぶ 3 内 容: 1. 学内の施設訪問(施設見学だけを目的としない 雨天等の場合は順延) 2. 施設を実見 施設の設計構想 構想を形にする 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 中間的なまとめ 内 容: 1. もう一度——大学というところ 大学生ということ 自分を語るということ 2. 現代に生きる 現代を生き続ける 3. 学生の小レポート紹介 4. 例ハンガリーの医師 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 人類史的な系譜——ヒトと人 内 容: 1. ヒト 2. 種と採取と栽培 針と糸 3. 人に生まれる 人となる 4. 人として歩む→人として生きる 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 人として生きる 内 容: 1. 学びの四パターン 2. 学問への切っ掛け 3. 真つちに生きる 4. 小レポート作成 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 「3. 11」に学ぶ 1 内 容: 1. 「3. 11」に学ぶ 2. 破壊の現実生きる 3. 出来事に学ぶ 経験に学ぶ 人に学ぶ 考え方に学ぶ 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 「3. 11」に学ぶ 2 内 容: 1. レポートを書くために 2. レポート作成の目論見書の作成 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): レポート作成の実践 1 内 容: 文字で表現するということ 文章表現の基礎的な項目 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): レポート作成の実践 2 内 容: 意見交換と文章の手直し 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): レポート作成の実践 3(レポート作成の最終段階) 内 容: 論理的な展開 主張の明確化 文章全体の再検討 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 〈学ぶ〉ということ まとめ 内 容: 1. 15 回の演習を振り返る 2. 要点を確認する 3. 意見の交換 4. 自らの到達点の確認 5. 自らの未達点の確認 教科書・指定図書
試 験	「3.11」について 4000 字以上のレポート提出(試験なし)。